



中野祐介市長と意見交換した静岡文化芸術大の学生ら＝浜松市役所で

北遠の民話調査 市長と意見交換

静岡文化芸大生

浜松市の中野祐介市長は17日、中山間地域に伝わる民話の調査に取り組む静岡文化芸術大（中央区）の学生7人と昼食を取りながら意見交換した。

学生は同大文化政策学部伝承文学ゼミに所属する3、4年生。天竜区の水窪町や龍山町、春野町で民間口承文化財（民話）の採録調査に取り組み、成果を書籍にまとめている。

学生たちは現在、春野町で行っている調査の概要や、地域の高齢者から話を聞く際の苦勞などを報告。中央区出身の中沢明音さん（4年）は「聞き取った話が記憶違いのこともある。正しい情報が裏取りするのが大変だった」、島田市出身の小鍋未羽さん（3年）は「山奥に住んでいてもプライドを持って暮らしていることが分かったと話した。ゼミを指導する一本松康

宏教授は「民話はその地域の『心と記憶の遺産』と言える。文化財として残すことで地域に寄与したい」と話した。中野市長は「地道で面白い活動を今後も続けてほしい」と応じていた。

（木谷孝洋）